

裏山にあるでっかい露頭とでっかい礫

| | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北村, 晃寿 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00025111 |

裏山にあるでっかい露頭とでっかい礫

北 村 晃 寿*

地学散歩(63)

静岡大学静岡キャンパスは有度丘陵の西斜面にある。同大学理学部地球科学教室では、この裏山で毎年4・5月の土曜日に地質調査の実習が行われている。そこで、今回は静岡大学のスタッフ、卒業生そして学生にとって馴染み深い有度丘陵の地質を紹介したい。

有度丘陵を構成する地層の層序の概略は土(1960)によって確立され、その後、近藤(1985)や柴ほか(1990)が同丘陵の岩相層序をより詳しく検討した。その結果、同丘陵は下位より根古屋層、久能山層、草薙層、小鹿層、国吉田層に区分された。また、根古屋層が礫質ファンデルタの前置部と底置部の互層で、久能山層は礫質ファンデルタの前置部と頂置部の堆積物、草薙層は内湾性堆積物そして小鹿層と国吉田層は礫質ファンデルタの前置部の堆積物と解釈された(近藤1985)。

これらの岩相層序学の研究と平行して Ibaraki and Tsuchi (1973)、北里ほか(1981)、岡田(1987)による微化石層序、北里・新井(1986)と杉山(1991)による火山灰層序学の検討が行われた。これらの結果を基に、杉山(1991)は根古屋層を酸素同位体ステージ11から7、草薙層を同位体ステージ5に対比し、両層に挟まれた久能山層を同位体ステージ6と5の変換期に対比した。一方近年、北村ほか(2000)は日本平球技場付近に分布する久能山層から採取した単体サンゴのウラン系列年代を測定し、約17.7万年前の年代値を得た。この結果から北村ほか(2000)は久能山層の堆積時代を酸素同位体ステージ6.5に結論づけた(図1)。

有度丘陵の層序に関する最新情報は、ここまでとして、アトラクティブな露頭風景を2枚の写真で紹介しよう。1枚目の写真は、静岡大学の北東1kmにある巨礫層(久能山層)である(写真2)。長径50cmを越える礫が露頭に突き刺さっており、中には1mを越える礫もある!2枚目の写真は久能山層に見られる大型斜交層理を持つ礫層である(写真3)。これは礫質ファンデルタの前置面の堆積物である。人形のように見えるスケールは、“本当の人間”だから、露頭の高さが数十メートルに達することは容易に理解されよう。実は、有度丘陵には、こうした驚くべき光景がまだまだある。ひょっとすると、家康公も楽しんでいただかかもしれない。

引用文献

Chappell, 1994, *J. Geogr.*, 103, 828-840; Dwyer, *et al.*, 1995, *Science*, 270, 1347-1351; Ibaraki & Tsuchi, 1973, *Rep. Fac. Sci. Shizuoka Univ.*, 8, 165-174; 北村ほか, 2000, 日本第四紀学会講演要旨集, 30, 36-37; 北里ほか, 1981, 静大地研報, 6, 45-59; 北里・新井, 1986, 静大地研報, 12, 245-249; 近藤, 1985, 地雑, 91, 121-140; 岡田, 1987, 化石, 43, 5-8; 柴ほか, 1990, 東海大学紀要海洋学部, 30, 47-65; Skene, *et al.*, 1998, *J. Sed. Res.*, 68, 1077-1092; 杉山, 1991, 地質調査所月報, 42, 78-109; 東海地方第四紀グループ, 1969, 日本の第四紀(地団研専報, no. 15), 299-318; 土, 1960, 地雑, 66, 251-262.

* 静岡大学理学部生物地球環境科学科地球生物圏進化学講座

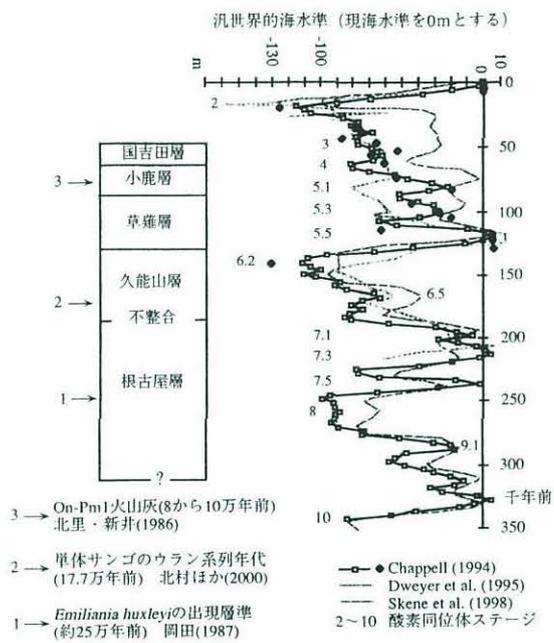


図1 有度丘陵を構成する第四系と氷河性海水準変動史

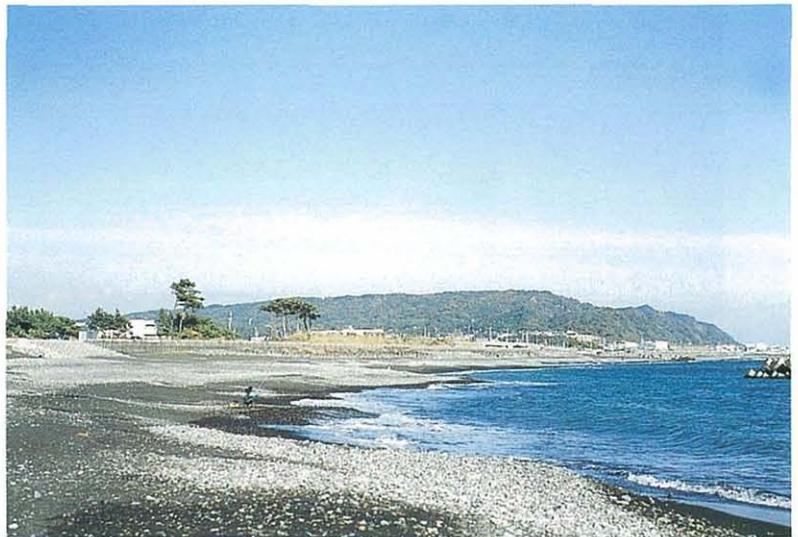


写真1 静岡市大浜海岸から撮影した有度丘陵



写真2 静岡大学の北東1 kmにある巨礫層(久能山層)

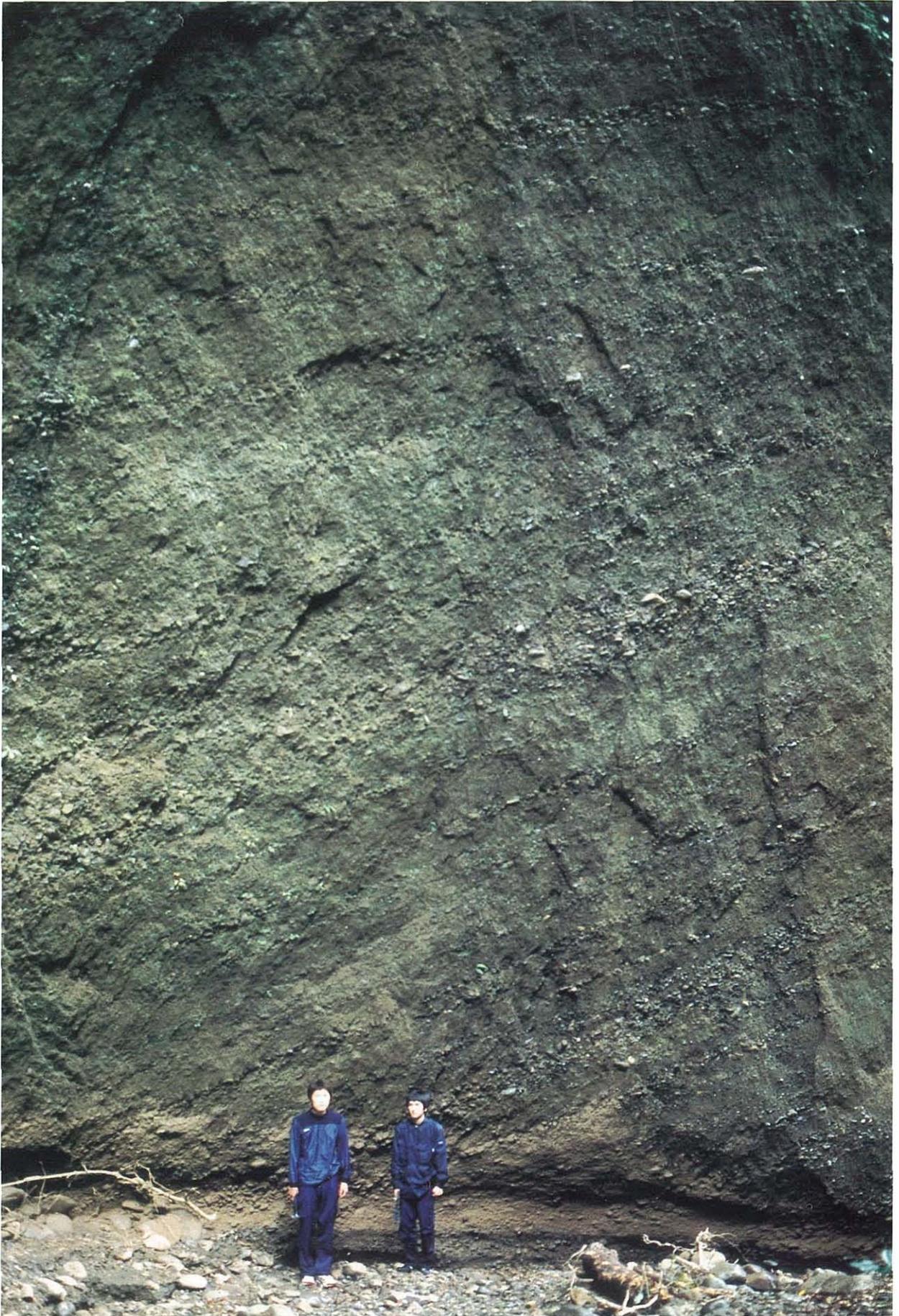


写真3 大型斜交層理を持つ礫層